

平成 28 年度第 1 回協議会（9 月 29 日）委員意見とその対応

1 中央緑地の森づくり

意見	対応案
○尼崎市の小学 4 年生の環境学習で、中央緑地に多くの時間を割くことは難しいと思う。各学校が苗木の里親として苗木を育て、中央緑地に植えてもらうとともに、森構想や森づくりについて知ってもらう取組はできないか。	◆学校単位での苗木の里親を増やすよう取り組んでいく。（行動計画 P 15 に記載） 小学 4 年生の環境学習の受入れについても、各学校と調整のうえ、限られた時間の中で植樹など、できるだけ多くの森づくり活動に触れてもらえるようカリキュラムづくりを検討していく。

2 中央緑地の利活用

意見	対応案
○運動会は、地域で働く企業の人に中央緑地へ来てもらう大変良いきっかけとなるので、実施してもらいたい。	◆地元企業の協賛を得て、間伐材を使用した中央緑地ならではの森の運動会「尼崎モリニック」を昨年 11 月に開催した。今後も、こうした取組を進めていく。（行動計画 P 27、P 34 に記載）
○暑いときには、屋根のある場所やミストシャワー、子ども達が遊ぶ噴水施設のようなものが必要である。	◆パークセンターの南側に遊具を整備し、あわせて日陰をつくる樹木も、はじまりの森から遊具の付近に移植している。（行動計画 P 13 に記載）
○平日の利用を増やすには、地域との連携が大事である。大庄地区の子ども会からは、「子ども達だけで自転車で来園するのは難しく、バスの利便性向上が必要である。」との意見があった。	◆アクセス向上に資する方策について、阪神バスなどの交通関係者と引き続き協議を進めていく。（行動計画 P 24 に記載）
○阪神高速道路の料金値下げについて、行政からの働きかけをお願いしたい。	◆関係 5 府県市の働きかけを受け、国土交通省が、新たな料金体系について、短距離が現行より安くなる距離制料金とする案を昨年 12 月に発表し、6 月頃の導入に向けた手続きが進められている。
○アクセスの充実が必要である。また、リンリンロードを通って、楽しみながら中央緑地へ来られる工夫が必要である。	◆アクセス向上を図るため、今秋、尼崎駅など阪神電鉄駅と中央緑地をポート（専用駐車場）を設置し、コミュニティサイクルの社会実験を行う予定である。その結果、本格導入となれば、利便性を高める設備の設置等も検討したい。（行動計画 P 24、P 27 に記載）
○神戸市のように、レンタサイクルや電動サイクルが使えるようになり、中央緑地に充電場所を設置できれば、自転車で中央緑地に来て駐輪場に止め、ジョギングをするということも可能である。	
○何回でも来たいと思ってもらえるよう、子ども用の遊具やランニング等のしやすい環境づくりのほか、ドッグランなどもあるとよい。	
○大庄地区の高齢者からは、「中央緑地は広すぎて、ベンチもない。」との意見がある。地域の皆さんに足を運んでもらうには、使ってみようと思える設備が必要である。	

○公園の一部を独占し、森の材を活用して有料の講習会等を行うようなネガティブな公園利用は、管理者にしっかりとチェックしてもらう必要がある。	◆公園の占用については、指定管理者や県の管理担当課で事前に内容確認を行い、適切に対処している。
○アメリカの「グリーンドッグプログラム」のように、時間帯を限定して、利用者の責任のもとで犬を放して遊ばせることは考えられないか。	◆イベントプログラムとして、柵を設けてアジリティを実施した例はあるが、柵を設けずに犬を放して遊ばせることは、他の公園利用との関係上、難しいと考えている。

3 情報発信の強化

意見	対応案
○阪神高速道路を通る観光バスの乗客が中央緑地を見て、「面白いことをしている」と思える看板設置などの仕掛けができないか。	◆PR 看板等の設置については、効果的な手法を今後検討する。(行動計画 P 21 に記載)
○中央緑地で壮大な森をつくらうとしていることをもっとアピールすべきである。	◆イベントなど各種の機会をとらえ、パンフレットやパネルなども使い、中央緑地の森づくりを今後も PR していく。
○産業遺産は、ハコモノだけではなく、中央緑地の土地自体が対象となる。土地も含めて、産業遺産を捉えてほしい。	◆全国運河サミット(平成 30 年秋)の開催を通じて、尼崎の運河や 21 世紀の森づくり等を全国に情報発信する。
○中央緑地の森づくりを一人でも多くの人に知ってもらうために、森構想の PR も兼ねた情報発信をお願いしたい。	
○You tube で活躍する You tuber をコーディネートして、中央緑地での森づくりを PR してもらうことが考えられないか。	
○Google Map で中央緑地や尼崎運河が適切に表現されていない。県からの働きかけにより、きちんと整理されることを期待している。	◆正しく記載されるよう、地図の出版社等に資料を送付するなど、県から要請しているが、是正されていないものについては、引き続き働きかけをしていく。
○通年の活動状況をまとめたパンフレットを毎年作成してはどうか。自分達も同じようなことが出来ないかと考えてもらうきっかけになる。	◆「森のしんぶん」や 21 世紀の森ウェブマガジンなどで、活動状況は適宜報告しているが、より効果的な情報発信の方法を今後検討したい。

4 森の会議、活動団体の連携

意見	対応案
<p>○活動団体との連携が進んでいないように見える。もっと様々なところに声をかけて、自主的、主体的なグループの人たちが森の会議に参加し、中央緑地を使えると思ってもらえるようなしくみづくりが必要である。</p> <p>○ボランティアで何かしたいという人々を集めたいのであれば、森の会議には、社会福祉協議会やボランティアセンターなどとのつながりをもってもらいたい。</p>	<p>◆森の会議への新たな参画を得るよう、パンフレット「森の会議のご招待状」や 21 世紀の森ウェブマガジンなどを通じて、広報を実施している。</p> <p>イベント企画の際は、森の会議と連携して、プログラムの内容をより充実させるよう、地域の協力を求めている。</p>
<p>○アマフォレストの会や尼崎信用金庫による森づくり活動と、森が出来上がってからの活用方法を考える森の会議の活動とでは目的が異なるので、別個のものとする必要がある。</p>	<p>◆森の会議の主催により、中央緑地の間伐材を使用して、森の運動会「尼崎モリンピック」が昨年 11 月に開催された。</p> <p>イベントを楽しみながら、中央緑地を知ってもらい、森づくり活動への理解と参加につなげられるようなプログラムを今後も企画していく。</p> <p>(行動計画 P 27、P 34 に記載)</p>
<p>○森づくりをしている人たちとイベントを実施している人たちがバラバラである。イベントで中央緑地を利用する人たちにも、森づくりに関わってもらわないといけない。</p>	
<p>○森の会議で練られた企画を指定管理者に示した際に、「出来ない」と言われても是非頑張ってもらいたい。森の会議は、管理者が難しいと考えるような企画を示すくらいの迫力をもってほしい。</p>	<p>◆森の会議で、県民の皆さんが提案された企画については、他の公園利用等に配慮しながら、可能な限り実現できるよう今後も調整していく。</p>

5 行動計画の改訂

意見	対応案
<p>○行動計画の取組方針や取組内容ごとにスターづくりをして、2020 年のオリンピックイヤーにあわせて集うようなことができないか。</p>	<p>◆今後、行動計画の取組を進めるなかで検討したい。</p>
<p>○行動計画改訂案 3 ページの「美しさ」「元気さ」は、情緒的ですばらしい書き出しで始まっているが、「誇り」「発信」は、そうした記述がされていない。例えば「これから」というような書き出しで名文を是非入れてもらいたい。</p> <p>○7 ページ以降は、大変きれいにまとめられているが、6 ページまでに例えば「生物多様性」というキーワードが見られない。こうしたキーワードが導入部分で欠落しているため、補強してもらいたい。</p>	<p>◆「誇り」「発信」の内容についても、「美しさ」「元気さ」に見合った表現とする。</p> <p>(行動計画 P 3 に記載)</p> <p>◆6 ページまでに「生物多様性」ほかのキーワードを盛り込む。</p> <p>(行動計画 P 3、P 6 に記載)</p>